



あおもり 町連だより

第227号

令和5年10月発行
青森市町会連合会
〒030-0801 青森市新町一丁目3-7
TEL 017(734)2584
FAX 017(734)2587

行政と住民のパイプ役

新任町会長 研修会開く

市民生活の第一線

令和5年度新任町会長研修会が7月21日、アピオあおもりで開かれ、昨年12月以降に初めて町会長になった41人のうち29人が出席しました。

佐々木重光会長が「町会長は市民生活の第一線に立ち、大変重い役目を負っていますが元気で明るいまちづくりに向かって頑張ってもらいたい」と激励しました。

まず加藤文男事務局長が



アドバイスする
齋藤晴彦自由ヶ丘町会長

「町会連合会の組織と町会長の仕事」と題して説明。町会は行政機関と住民とのパイプ役であり、生活環境の維持改善から交通・防犯、火災予防、児童の見守りなど安全安心して暮らせる活動から地域



新たに町会長になり重責を担うみなさん

のまつりなど住民同士の親睦活動までと多岐に渡ることを紹介しました。

また町会長は「①自分の行動や言動には責任を持つ②プライバシーは必ず守る③ひとりで抱えずにみんなで分担する④幅広い住民参加のための工夫をする⑤相手の立場や考え方を尊重する⑥子どもたちも地域づくりに参画させる⑦情報提供と後継者作り⑧必ず引き継ぎをする」ことなどの心がけを紹介しました。

ストレスをためない

令和2年度から始まった「先輩町会長からのアドバイス」は町会長16年目という自由ヶ丘町会の齋藤晴彦町会長が務めました。町会長がごみ収集・除排雪・環境整備・地域活性化・回覧板・町会費・組織運営など広範に関わりを

持ち、市、県、町会連合会とさまざまな機関と連携協力していることを図で示し、①一部の人に負担を集中させない②組織内で情報の共有③連合町会や行政等との情報交換・相談—を心掛けることで「ストレスをためないように」とアドバイスしました。

補助制度を知ろう

町会の地域活動やコミュニティ活性化事業、市民館運営・整備事業などを支援する制度はさまざまあり、窓口となる市の市民協働推進課が補助制度の説明と積極的な活用を促しました。

新任町会長からは補助制度を早期に周知してほしい、補助事業の実施と支払い時期のずれを解消できないかなどの質疑要望が出されました。

交通安全・防犯呼びかけ

地区連合町会が大会やパレード

地区連合町会はこの夏、高齢者と子どもたちを事故や犯罪から守ろうとねぶたを繰り出すなどそれぞれに工夫を凝らした交通安全・防犯大会や街頭パレードを行いました。

【南部第一区(高坂次男会長)】7月1日、高田まちづくり協議会、高田ねぶた実行委員会も実施団体に加わり、150人が参加しました。パ



レードには地域のねぶたが出陣し、ミスターハネトと子どもたちも元気よくはね、沿道では車椅子のお年寄りたちが大喜び。防犯、交通安全をみんなで誓いました＝写真左。

【南部第六区(千代谷義治会長)】7月8日、玉川、板橋、

浜田、浜田ニュータウン、浜田中央、八甲田大橋、桂木、浜田青葉台の各町会と女性部、老人クラブ、パトロール隊など300人が参加し、総決起大会では事故犠牲者を追悼する黙とうを行いました。青森警察署みなみ交番パトカーの先導で青森山田高校吹奏楽部が地区内のパレードに花を添えてくれ、盛況でした。

【東部第五区(齋藤晴彦会長)】7月22日、連合町会のほか交通安全協会浜館支部、浜館駐在所連絡協議会、浜館小学校、同ねぶた愛好会、浜館地区社会福祉協議会から200人が参加しました。虹ヶ丘公園で出発式、サンデー虹ヶ丘店から生協ひまわり館まで1.1キロをねぶたの先導で横断幕を手にパレード。プラカードやチラシを配布して「はまだて大好き！安全一番！」を



呼び掛け、決意を新たにしました＝写真右上。

【東部第六区(伊藤盛一会長)】7月23日、初めて佃小学校PTAの「ふれあいねぶた」と「交通安全パレード」がコラボレーションして実施し、つくだ交番連絡協議会が共催。西秀記市長から激励のあいさつを受けました。交通安全と大書した行灯を先頭に、交通事故防止たすきを着けて出陣しました＝写真右下。

「終活」をテーマに女性部会が勉強会

女性部会は7月20日、男女共同参画プラザで「終活」をテーマに勉強会を開きました＝写真。講師は青森市高齢者支援課の中野侑美さんが務めました。終活とは「人生の終わりについて考え準備する活動」を意味する造語とのこと。「人生の終わりについて考えることによって、今をよりよく生きるための活動」という理解が進み、前向きなとらえ

方が広がっているそうです。青森市は令和2年にエンディングノート「わたしノー



ト」を希望者に配布しています。元気なうちから①わたしのこと②今後のこと③葬儀・お墓などのこと④財産等のこ

と⑤相談・手続きのことや大切な人への伝言ーを書き込むことで老後に必要な備えができ、充実した暮らしが見えてくると活用を勧めています。

勉強会では部会長木村常子さん(橋本南第二)、副部長長穴水由利子さん(鶴ヶ坂)ら部会員8名が社会福祉士でもある中野さんの指導でさっそく書き込みを行いました。この勉強会を契機にそれぞれの地域、町会で「わたしノート」のことを広めていくことにしました。



松原町会

町会長 新岡壮太郎

青森と弘前の往還道路

松原町会は堤川に沿って南北に一丁目、二丁目、三丁目と分かれています。歴史をたどると「二の松原」という町は昔、青森と弘前を結ぶ往還道路で、道の両側に松並木が続いていたことから、松原町会と命名されたと伝わります。

今から83年前の昭和15(1940)年、野脇第7町会として世帯数160戸で発足。その後の区画整理事業などにより住宅地として発展。今では一丁目から三丁目まで全世帯数が1,030世帯を数え、青森市の中心部における要の地域となっております。

3年前に創立80周年

創立80周年を迎えた3年前に記念事業を実施し、松原公園に東屋や防災ベンチを設置、青森市に寄贈致しました。また記念文化祭を始めとして、記念誌の発行、青少年の健全育成の一環として、地域の小・中学校への図書券寄贈など実施して参りました。

令和5年に入り、コロナ感染症もようやく落ちつきを見せたことから、コロナ対策を徹底することで町会事業も大きく動き出しました。



待ちかねた子どもねぶた



段ボールの迷路遊び



みんなで清掃活動

事業が盛りだくさん

春の総会開催に始まり、5月の地域清掃、春のレクリエーション、ラジオ体操、松原子どもねぶた運行、盆踊り大会、敬老会、防災訓練、秋の文化祭、新年会の開催。年間の事業計画は非常に多い町会です。

3年振りに開催した松原子どもねぶた運行ではコロナの影響が残る中、参加人数を心配したところ、運行途中から次々と参加者が増え続け、子どもたちが待ちこがれていたのを強く感じました。

10月の文化祭は、町会の皆さんや小中学校の生徒の作品を展示、段ボールによる迷路遊びなど多彩な内容が来場者の歓心を買ひ、成功へと結びつきました。

安らぎの環境大切に

雄大な八甲田の山々をはるかに望み、北は緑の遊歩道を境界に、東は穏やかな流れの堤川という環境の中に存在するわが松原町会。

青森市内の中核地として先人の努力によって築かれた歴史と安らぎの環境を継承しつつ、変化する時代に適応した町会活動を目指して、今後も地域の安全と親睦を第一に町会運営に携わってゆきたいと思ひます。

ホームページをご覧ください

青森市町会連合会のホームページは町会の広報紙も掲載しています。パソコンでもスマートフォンでもご利用いただけます。アドレスは次の通りです。
<https://aomori-choukairen.jp>

下記QRコードからもアクセスできます



いにしへの「町名」「通り」を知ろう

近現代編⑨

松並木があった「松原町」



松原町周辺
 (「青森市街図(字界別)」昭和30年代、歴史資料室所蔵)

松原地区は堤小学校や中央市民センターが立地する文教地区として知られています。松原という町名の由来は地区を通る街道(現在の県道27号)の両側にかつてあったという松並木です。昭和10年代、久慈玉三郎を組合長とする南浪打区画整理組合が区画整理を行った際に名付けたといわれています。

当初は街道の東側が「松原町」と呼ばれていましたが、昭和45年(1970)に行われた住所表示整備事業により、通りの西側もあわせて「松原」という住所表示になりました。

なお、町名の由来となった松並木は戦時中、航空機の燃料として使用する松根油を採るためにほとんどが伐採されたといえます。

南北に走る松原通り

松原地区を南北に走る県道27号は「松原通り」と呼ばれて

います。この呼称は大正時代の資料でも確認することができます。

また、この通りは筒井村の歩兵第五連隊(現青森高校敷地)へと通じる道であることから、「五連隊通り」

「兵営通り」「営所通り」とも呼ばれていました。現在の奥野バス停附近には陸軍官舎など軍に関係する施設もありました。

尋常小から医専まで

昭和12年、現在の中央市民センターの位置に青森市立野脇尋常小学校(現堤小学校)が開校しました。しかし、昭和19年に官立青森医学専門学校(医専)の開校に伴って一時閉校し、医専の校舎となりました。この校舎は昭和20年の空襲で焼失を免れましたが、医専は附属病院などを失い、昭和22年3月に弘前市へ移転しました。医専が利用していた校舎には昭和22年4月に野脇中学校(南中学校の前身校の一つ)が置かれました。

昭和24年に野脇中学校が新校舎(現リンク

村上 亜弥編集委員
 (市民図書館歴史資料室)

ステーションホール青森(青森市文化会館)の位置)へ移転すると、旧校舎を利用して野脇小学校が復興しました。さらに、昭和29年に野脇小学校が新校舎(現堤小学校の位置)へ移転すると、松原中学校(昭和25年開校)の校舎として利用されました。

空襲により多くの学校が罹災した青森市では校舎の確保が大きな課題となっていました。空襲で焼失を免れ、多くの学校が利用した旧野脇尋常小学校校舎は青森市の教育復興の一端を担った建物といえるでしょう。

跡地に「文化の殿堂」

昭和40年3月、松原中学校が閉校しました。跡地には市制70周年を記念し、市民の憩いと教養の場として青森市民文化センター(現中央市民センター)が建設されました。昭和44年に開館したセンターは現在も生涯学習・社会教育活動の場として多くの市民に利用されています。



青森市立松原中学校
 (昭和20年代、「復興した新しい青森」)